



徐々にコロナ前の生活スタイルに戻つつある中、新しい仲間や先生、教室にも慣れ、それぞれの個性を発揮しながら、充実した学校生活を送っています。



小学部 トマトを育てよう

カゴメ食育プログラムに参加し、全学級で「こあまちゃん」を育てています。自分のプランターに水やりをしています。生活単元学習の観察タイムでは、嬉しそうにトマトの実を撮影！「13個もあるよ～」と驚いていました。低学年では、思わず実を摘んで味見する児童も・・・。収穫や調理が楽しみです。



中学部 陶芸・作業学習

中学部としては初めて、作業学習で陶芸にチャレンジしています。手指で粘土の感触を確かめながら丁寧に皿の成形をすると、表面がだんだんなめらかになってきます。デザインも「武田の家紋風」「ニコニコ笑顔の模様」などみんなで意見を出し合って考えました。丸やひも状の模様を組み合わせ、平らに延ばすと模様がつぶれてしまうので、自分の作業をふり返って、「次はもっとパーツを小さく」「もっと細く」など試行錯誤しながらきれいに模様が出るようにみんながんばっています。



高等部 職場見学・体験

毎年、現場実習や職場見学・体験という活動を通して、卒業後の自分の進路を考える学習をしています。5月には1.2年生が、「NSD 八ヶ岳ファーム」、「クリナーズ酒折」、「マクドナルド」の事業所を訪問し、見学や体験をしてきました。どの職場も様々な仕事があり、働いている方々は集中して取り組んでいました。また、本校の卒業生から働く上でのやりがいや苦労などを聞くこともでき、6月の現場実習に向けて、働くことについてより深く考える機会となりました。



特別支援学校より

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、人前で声を出すことやスポーツ競技などで声援を送る場面が以前より見受けられるようになりました。歌唱することも少しは自由になってきたでしょうか。この歌唱するという行為は、人間にとってとても大切なことなのです。「歌う（唄う）」の語源は、「訴う」にあるとも言われており、自分の思いを相手に強く訴える活動であると言えます。この先、児童、生徒の思いが溢れる学校になっていくことを願っています。 校長 井坂 健一郎

新型コロナが第5類に移行し、十分に感染対策を行いながら、新しい体制での学校生活がスタートしました。昨年度に引き続き、山梨大学教育学部附属の4校園（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）の様子を地域や関係のみなさまにお知らせしたいと思います。

幼稚園

本園では、園の紹介と地域貢献を目的として、未就園児の親子を対象にした「いちごぐみ」を開催しています。ここ数年はコロナ禍の影響により、保育時間外に実施する状況が続いていましたが、今年度3回目となる6月7日(水)の「いちごぐみ」は、久しぶりに園児のいる時間帯に実施することができました。

当日は、「今日は小さい子が来るんだね!」「いつ来るの?」と、朝からわくわくしながら楽しみにしていた幼稚園の子ども達。年長さくらぐみの子ども達に「案内係」をお願いすると、はりきって玄関前でお出迎えをしてくれました。「こっちだよ!」「どうぞ!」と小さい子の手を引いたり、背中にそっと手を添えたりしながら遊戯室まで優しくご案内。中には、「お荷物は机の上どうぞ～」と保護者に向けてアナウンスをする子もいるほどのはりきりぶりでした。嬉しそうにお兄さん、お姉さんと手をつなぐ子、はずかしくてお母さんの後ろにかくれてしまう子と、小さなお友達の反応は様々でしたが、年長児が相談して作った「幼稚園の地図」を手渡すと、大事そうに握りしめていました。



小さいお友達が遊び始めると、年中や年少の子ども達も興味津々です。1歳違いのお友達を見て「かわいいね」とつぶやいたり、「私はもう4歳だからね!」と遊び方を教えてあげたり、「どうぞ!」と遊具を譲ってあげたりするなど、幼稚園の子ども達がいつもよりちょっぴり背伸びをしながら、「いちごぐみ」のお友達を見守る姿が見られました。

参加者のお母さん方は、「子ども達はこんなによく遊べるのですね!」「うちの子もあんな風に大きくなるのかしら・・・」などと、園児の姿を見ながら目を細めていらっやいました。

幼稚園の「いちごぐみ」での出会いが、園児や未就園の子ども達、保護者の皆様にとって、心温まる出来事として残っていつてくれることを願っています。

幼稚園より
幼稚園では、子どもたちが自分より年長の子どもに対する憧れをもち、「自分もあんな風になりたい」と願い、そうなるうと試行錯誤を重ねる中で育っていく、ということをつたび目に見ます。地域の未就園児の親子に附属幼稚園を開放し、健やかな育ちを支援する「いちごぐみ」ですが、実は、園児の育ちの貴重な機会にもなっているのです。 園長 若本 純子



初等教育公開研究会を行いました！

6月24日（土）に初等教育公開研究会を行いました。4年ぶりの全面参集型での開催で、県内外さらには海外からも約500名の参観者をお迎えすることができました。

研究テーマに「ともに学び、学び抜く子供～非認知能力に注目した授業を通して～」を掲げ、各学年各教科等で合計16の授業を公開させていただきました。授業

後の分科会においても活発な議論が交わされました。また、午後の全体会では、講師としてお招きした慶應義塾大学教授の鹿毛雅治先生と本校3名の教諭によるパネルディスカッションを行い、テーマに迫る子供の姿について明らかにすることができました。ご参加いただいた皆様のご意見を今後の研究推進の参考にさせていただきたいと思っております。



1年・図画工作科



2年・体育科



3年・理科



4年・外国語活動



5年・算数科



6年・家庭科

小学校より

コロナがようやく沈静化し、学校行事が以前の状態に戻りつつあります。防犯教室などで全校児童が一堂に集合できるようにもなりました。また、子どもの自主性を重視して充実した修学旅行を行うことができました。授業参観でも時間制限をせずに保護者の皆様に教室で子どもの姿を見ていただくことができました。6年生を中心にプール清掃を行い、プールに入る回数を増やすことになりました。56人の教育実習生を受け入れ、子どもの協力のおかげで無事終了しました。親子清掃では約350人もの保護者の皆様にご参加下さり、子どもと一緒に清掃を行い、校内がすばらしくきれいになりました。

公開研究会は参集型のみで行い、オンラインが中心であった令和3、4年度に比べ参加者は減ったものの、直接子どもの学ぶ姿を観察してご意見を伺うことができ、今後の励みとなりました。これからも保護者の皆様と協力して、子どもが元気に学校で学べるよう、また学校行事を十分楽しめるよう努力してまいります。

校長 宮崎 淳一



探究学習の先にあるもの

5月10日～12日の3日間にわたり、3学年「若桐のつどい」が実施されました。天気予報を見るたびに、土砂降りの中行った

昨年富士山五合目散策が思い出されましたが、最終日まで一度も雨に降られることなく最高の旅になりました。1日目の奈良散策では、法隆寺の柱に直接触れたり、奈良の大仏を間近に見たりと歴史の偉大さを肌で感じることができました。2日目の自主見



興福寺

～古都の息吹を感じて～

学班による京都グループ別見学では、有名な寺社仏閣から個人の探究テーマを深める見学地までバラエティに富んだ見学地で学びを深められました。また、座禅体験や京都駅での夜のお土産タイムも忘れられない思い出になりました。3日目は、京都大学での特別講義とキャンパスツアーです。大学の先生の講義や大学生とのふれあいを通して、将来の自分の姿をイメージすることができたと思います。集団としての力を高めることのできた3日間でした。



京都大学

～金丸准教授による特別講義～

甲府市総合体育大会

6月12日（月）、生徒会本部や吹奏楽部、応援団を中心として、総合体育大会に臨む選手にエールを送りました。体育館で全校生徒がつどって行った4年ぶりの壮行会は、心のもった応援と各部の総体にかかる意気込みを強く感じるものとなりました。

17日（金）、18日（土）に行われた本番では、保護者の声援を受けながら、日頃の練習の成果を結果に繋げようと頑張る姿が見られました。3年生にとっては最後の大会となった部もありましたが、最後まで諦めずに前を向いて挑んでいました。



応援団によるエール

7月に行われる県大会に出場する選手はさらに上を目指して頑張ってください。応援しています！！



卓球部の戦い

初めてづくしの1年生

生徒会活動のスタートとして生徒総会に臨みました。議案書を読み込み、班ごとに討議し、質問や賛成意見を考えました。生徒会スローガン「A、新たな始まりを大切にしよう」という想いを受け止めて一年間の生徒会活動のスタートを切りました。

5月29日には初めての定期テストに臨みました。テストが終わった時のやり切ったという表情からは初めてのテストの緊張感と努力の跡が感じられました。



生徒総会

中学校より

感染症対策緩和の方針に従い、全校集会が久しぶりに対面実施されています。6月12日の市総体壮行会では全校生徒が一堂に会し、エールを交換し直接声を掛け合うことの素晴らしさを再確認しました。今後も大学や保護者の皆様のご協力のもと、生徒の安心・安全を第一に考えて感染予防を行い、楽しみにしている学校行事に取り組んで参ります。

校長 早川 健